

津麦ニュース 令和3年産 第1報

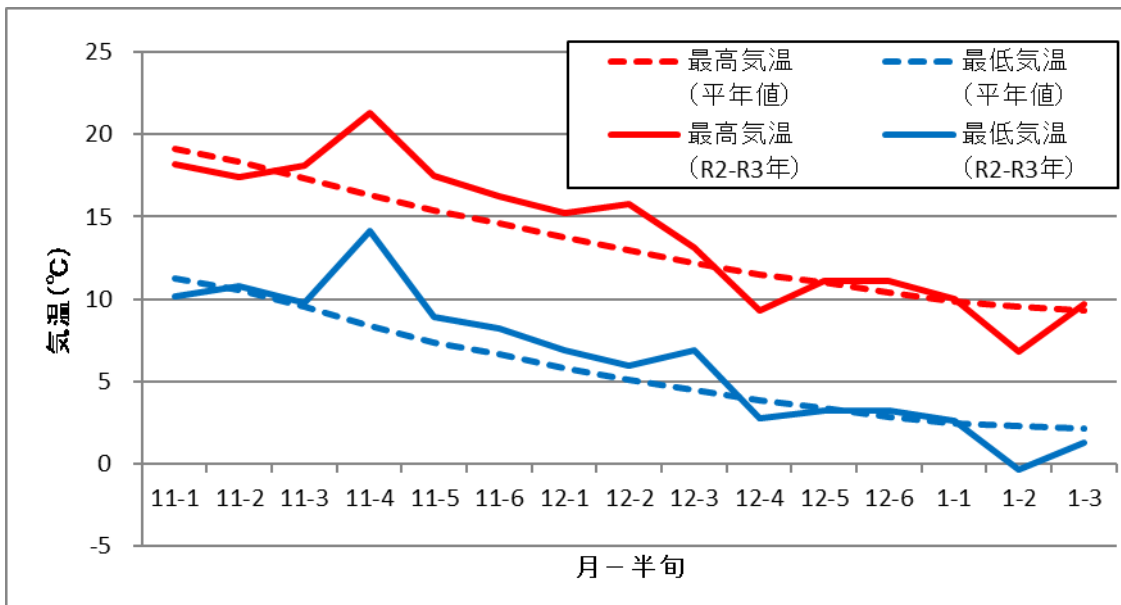
令和3年1月22日発行
津地域農業改良普及センター
電話:059-223-5103

**麦の生育は順調に進んでいます。
今後、生育状況に応じて追肥を行い、生育量を確保しましょう。**

< 気象経過 >

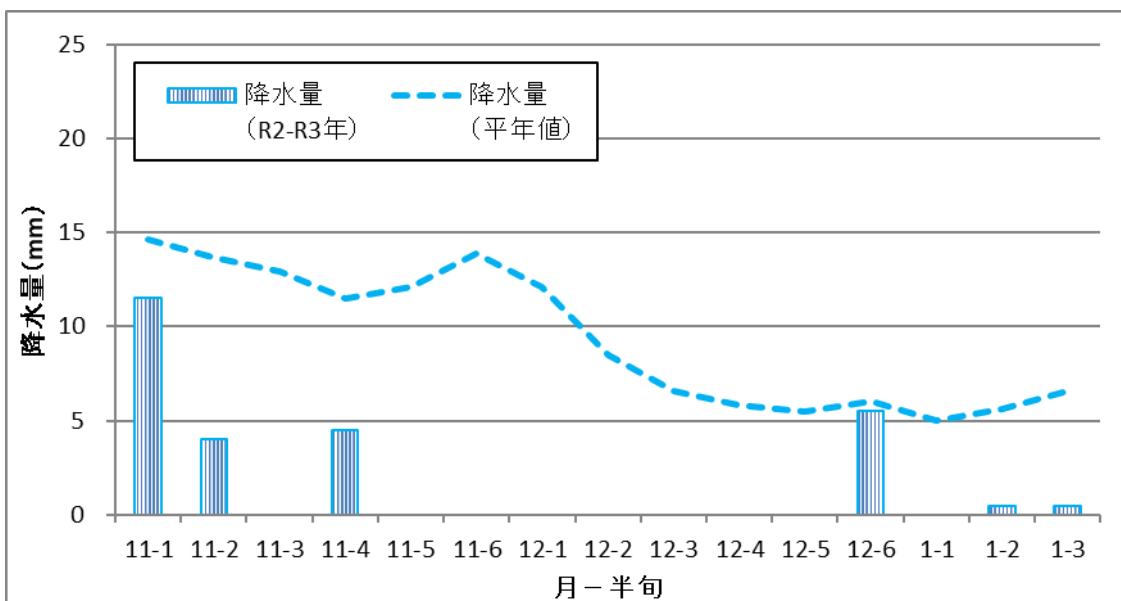
○気温

11月第4半旬から12月第3半旬にかけて平年より高く推移しましたが、12月第4半旬以降は平年よりやや低く推移しています。



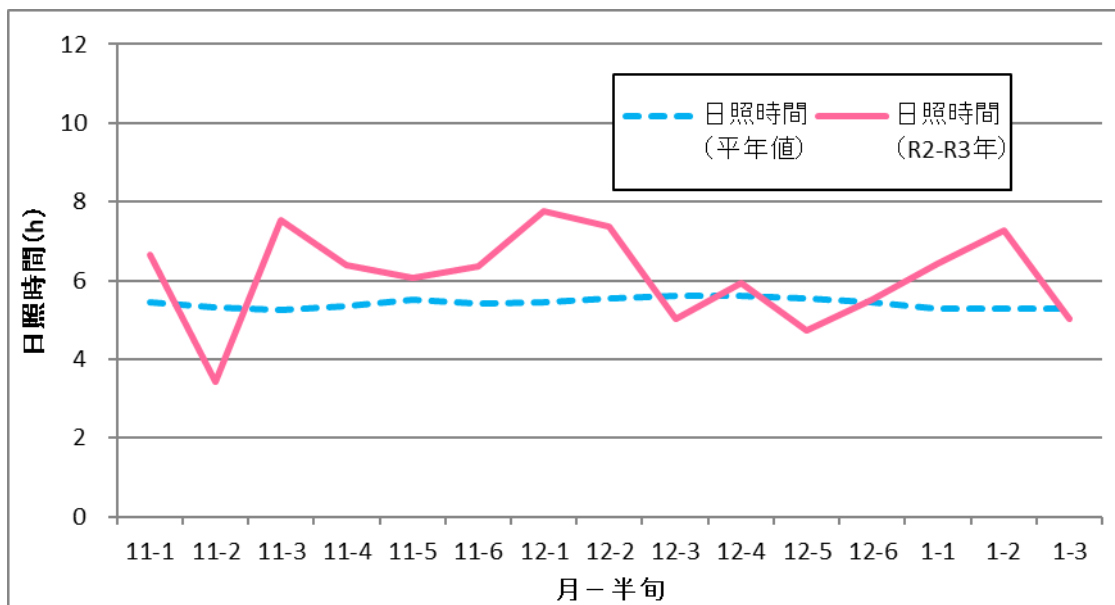
○降水量

11月第1半旬にややまとまった降水があった以外は平年よりかなり少なく推移しました(11月第1半旬から1月第3半旬までの降水量は平年比19%)。



○日照時間

播種期以降、生育期間を通じて平年並みからやや多く推移しています。(11月第1半旬から1月第3半旬までの日照時間は平年比112%)。



< 麦の状況 >

○ 播種作業

11月第1半旬に降水があったものの、以降はまとまった雨が降ることはなく、播種作業は順調に進みました。大豆跡等の一部ほ場を除いて、11月末までに播種作業は概ね終了しました。

○ 生育状況

12月第3半旬まで気温が高く推移したことから、11月半ば頃までの比較的早い時期に播種されたほ場では初期に生育が進みました。しかし、12月半ば以降、気温が平年並み～低く経過し、生育は一時的に停滞しており、ほぼ平年並みの生育の早さだと思われます。一方、11月下旬以降に播種されたほ場では、乾燥によりやや出芽に時間がかかり、その後の気温低下もあって生育の進みはやや遅いと思われます。昨年産が暖冬に経過して生育がかなり早くなったのと比較すると大きな差が見られています。

○令和3年産(令和2年播)小麦生育基準田の状況

【令和3年1月18日現在】

令和3年産小麦

令和3.1.18時点

調査場所	播種月日	草丈 cm	茎数 本/m ²	葉色SPAD	葉齢 L	播種後日数
芸濃	11月21日	10.1	171.1	49.9	3.2	58
殿村	11月13日	10.0	216.0	47.3	4.5	66
白山	11月14日	11.4	418.0	50.9	5.0	65

(参考)

令和2年産小麦

令和2.1.20時点

調査場所	播種月日	草丈 cm	茎数 本/m ²	葉色SPAD	葉齢 L	播種後日数
芸濃	11月13日	13.1	355.0	44.4	5.0	68
殿村	11月13日	17.2	435.3	44.1	5.3	68
白山	11月13日	16.0	376.0	46.8	5.5	68

H30年産小麦

H30.1.23時点

調査場所	播種月日	草丈 cm	茎数 本/m ²	葉色SPAD	葉齢 L	播種後日数
芸濃	11月27日	9.9	194.0	39.2	2.3	57
安濃	11月10日	11.6	381.0	46.9	4.2	74
白山	11月7日	13.2	380.0	47.0	4.5	77

＜今後の対策＞

○ つなぎ肥、追肥

・つなぎ肥

播種期以降の降水量が少なく、肥料の流亡は少ないと思われます。全体には葉色は並み～やや濃く、肥料切れの兆候が見られるところは少ないと思われます。

肥料切れが減収につながることから、ほ場をよく観察し、4葉期前後に色が薄くなってきたほ場では、穂数確保や肥切れ防止のために積極的につなぎ肥(窒素1～2kg/10a程度)を施用してください。

・追肥(穂肥)

6葉期(幼穂形成期)は穂数の確保に重要な時期で、「肥切れ」させないことが重要です。6葉期を迎えたら穂数確保のため、追肥(窒素2～3kg/10a)を行ってください。

6葉期を迎える時期は、

11月上旬の播種では1月下旬頃

11月中旬の播種では2月上中旬頃

11月下旬の播種では2月下旬頃と予想されます。

○ 麦踏み

葉が3枚以上出たら麦踏み可能です。播種時期の早いところでは生育が進み、早期に幼穂形成する可能性があり、幼穂形成後、低温に遭うと凍霜害を受ける恐れがあります。進みすぎた生育を抑えるために麦踏みは有効です。このほか、麦踏みには、乾燥や寒さによる株の浮き上がり防止、有効茎を増やし根をしっかりと張らせるなどの効果があります。ほ場がよく乾いているときに行うようにしましょう。茎立ち期(節間伸長開始期)までに実施してください。

○ 排水口、ほ場の明きょ(周囲溝、排水溝)等の点検

ほ場が乾燥しているときに降雨があると土壌が崩れやすい状況になるので、排水性を確保するために、排水口や明きょ等を点検してください。